

令和8年春作業のポイント

1 収量・品質確保のため高温に備えた土づくりをしましょう

- 9割以上のほ場でケイ酸が不足し、7割以上のほ場で鉄が不足しています。土壌診断に基づいた土づくり肥料の施用で地力を増強しましょう。
- 異常気象による収量・品質の低下を防ぐには、ケイ酸の施用などの土づくりが有効です。
- 根域を広げ、収穫期まで養水分を吸収できる根の活力を維持するため、耕深15cmを目標に耕うん作業をしましょう。

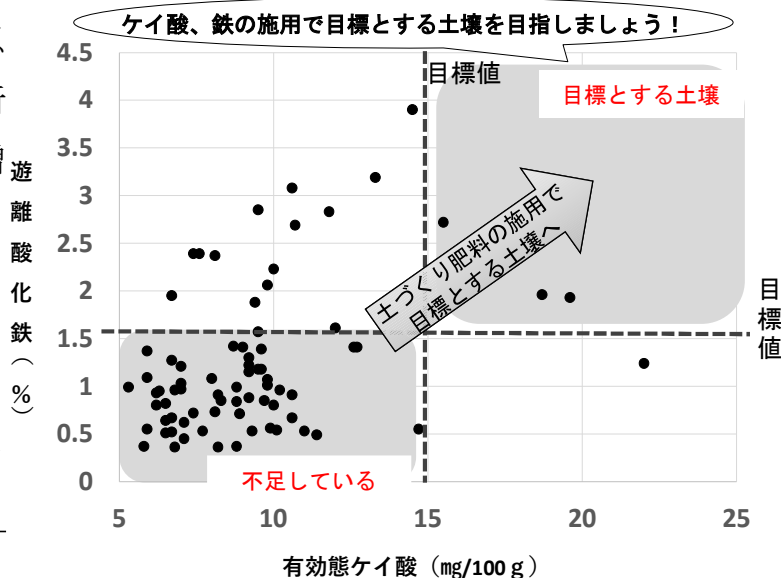


図 令和7年度 土壌分析結果 (JA魚沼、75点)

2 休眠深い、浸種水温12℃、積算水温120℃を目安に浸種

- 令和7年産コシヒカリBL種子は休眠が深いと推定されます。発芽揃いを良くするため浸種水温10～15℃、積算水温 120℃をめやすに浸種しましょう。
- 浸種初期の水温が低いと発芽不良になり易いので、特に浸種開始直後は10℃未満の低水温にしないよう注意しましょう。
- 浸種は早くなりすぎないように注意し、田植日から逆算して作業計画を立てましょう。
- 浸種水温が高まり、酸素不足とならないよう水の更新を適宜行いましょう。
- 温湯消毒のみでは防除効果が劣るため、微生物農薬 (タフブロック等) との体系処理を行いましょう。

注) 農薬の使用に際しては、必ず最新の登録内容を確認し、農薬使用者が責任をもって使用してください。

3 計画的な播種で健苗を適期移植しましょう

- 初期生育を確保するために、2.0～2.2葉程度の健苗を育成しましょう。稚苗では20日間程度の育苗日数となるよう田植え時期から逆算して適期に播種を行いましょう。
- 異常高温のリスク軽減と、収穫期の分散のため、大規模経営体では、移植時期だけでなく、播種時期を分けてコシヒカリの作期拡大を図りましょう。

【QRコードを読み取り稲作情報を確認しよう】

JA魚沼 北魚沼地区
営農情報 (LINE)
はこちら →



魚沼農業普及指導
センターHP稲作情報
はこちら →



お問い合わせ先

JA魚沼北魚沼基幹営農センター
025-793-1770
魚沼農業普及指導センター
025-792-1309